

尿ストレスマーカー 8 成分 一斉分析

研究検査

2020年10月現在

検査概要

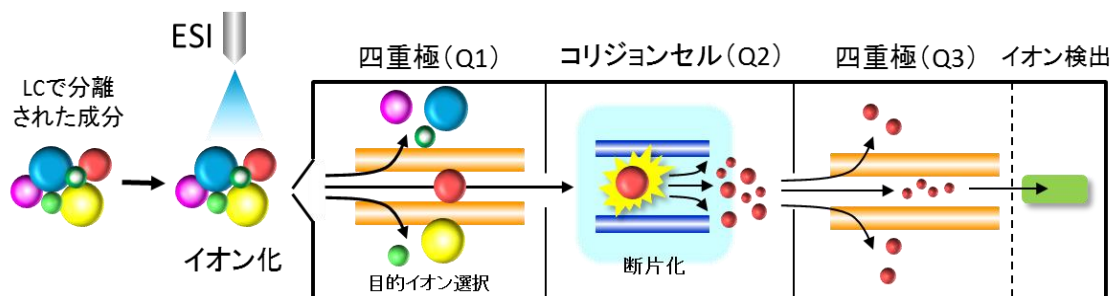
検査法	質量分析 (LC-MS/MS)
検査項目	ストレスマーカー 8 分画 (コルチゾール、イサチン、ドーパミン、セロトニン、GABA、5-ヒドロキシインドール酢酸、バニリルマンデル酸、ホモバニリン酸)
材料	尿
必要量	1000 μ L
保存方法	採尿後、-20℃にて保存
最低出検数	30検体以上
納期	検体受領後1カ月

使用機器について

当社では、トリプルQ型質量分析装置を用いたMRM (Multiple. Reaction Monitoring)による定量分析を行っています。

Q1で目的のプレカーサイオンを選択し、続くコリジョンセルで不活性化ガスと衝突させ断片化します。さらにQ3でプロダクトイオンを選択することにより、高選択性・高感度の定量分析が可能になります。

検査装置：島津製作所製
トリプルQ型質量分析装置
8050



ストレスマーカーとは

臨床的意義（測定意義）

ストレスマーカーであるコルチゾール、GABA、セロトニン、ドーパミン、イサチン、5-ヒドロキシインドール酢酸、バニリルマンデル酸、ホモバニリン酸は、ヒトが受けたストレスに応答し、増加あるいは減少することが知られています。

現在、国内のうつ患者は年100万人に上り、その健康的・社会的・経済的損失拡大の抑制は急務です。継続的なストレスによるうつ発症の防止、さらには再発防止のためには、従来の問診に加え、客観的かつ簡便なストレスの計測が重要です。

しかしながら、ヒトのストレス応答機序は多岐に渡るため、ストレスに応答する複数のマーカーを調べることで、より正確なストレス評価が可能です。

測定対象物質

項 目	ストレスとの関係
コルチゾール	ストレスにより血中や唾液中の濃度が増加することが知られています。
G A B A	抑制系の神経伝達物質であり、ストレスを和らげ、興奮した神経を落ち着かせる作用を持つことが知られています。
セロトニン	睡眠、体温、情緒・気分、食欲の調節に関係するとされています。また、セロトニンの働きの低下はうつ病の一因であるといわれています。
ドーパミン	ストレス刺激により血中で増加することが知られています。
イサチン	不安、焦燥と関係が深いとされる種々の病的状態で増加することから、ストレスや不安との関連が示唆されています。
5-ヒドロキシインドール酢酸	セロトニンの代謝物のひとつであり、セロトニンと同様気分に応答します。
バニリルマンデル酸	カテコールアミン類の代謝物であり、交感神経系の活動性を反映し、ストレスにより増加するとされています。
ホモバニリン酸	ドーパミンの代謝物であり、ドーパミンと同様ストレス刺激により変動します。

お問い合わせ



KPSL

九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1

九州プロサーチ有限責任事業組合

<https://kpsl.jp/>